

オープン市場短信 (2014年12月)

2014.12.10

◆ 11月のCP市場動向

11月のCP（短期社債）月末残高は16兆3826億円と、4か月連続して前年同月比増加し、前月比では1兆2273億円の増加となった。月末残高が16兆円を超えたのは、今年1月以来10ヵ月振りとなっている。

一般事法では、資金賞与手当等資金需要が強まったことも有り、6162億円の増加となった。業種別では卸売業・機械等を中心に多くの企業で発行増が確認された。また、その他金融・金融機関・ABC Pについても、各々増加となった。

発行レートの動きについては、年越え物については横這いから若干低下地合いでの動きとなったが、年内償還物や発行量の多い銘柄についてはやや上昇する動きとなった。

最上位格付け銘柄では、0.05%台から0.08%台前半での出会い。一般銘柄（1格）については、0.08%台前半から0.11%台後半での出会いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.076~0.081%。一般事業法人（a-1格）0.083%~0.119%。その他金融銘柄（a-1格）0.082%~0.165%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	11月末残高	10月末残高	増 減
一般事法	50,430	44,268	6,162
その他金融	61,391	57,232	4,159
金融機関	36,256	35,146	1,110
政府系金融	0	0	0
銀行等	13,793	14,064	-271
証券	22,463	21,082	1,381
ABC P	15,749	14,907	842
計	163,826	151,553	12,273

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

11月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(一般事法)	0.0755% ~ 0.0830%	0.05台 ~ 0.0750%	0.0760% ~ 0.0810%
a-1 (一般事法)	0.0800% ~ 0.1090%	0.0820% ~ 0.1090%	0.0830% ~ 0.1190%
a-1+(リース銘柄)	—— ~ ——	0.0780% ~ 0.0810%	0.0780% ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0920% ~ 0.1000%	0.0880% ~ 0.1700%	0.0820% ~ 0.1650%
a-2	0.0940% ~ ケ0.35%	0.0960% ~ ケ0.35%	0.0960% ~ ケ0.35%

《CPオペ》

CP買入オペは、11月から銘柄毎にレート提示を行う新方式のオペで、7日・17日・25日と3回実行、各回4000億円にてオファーされた。オペレートは、按分レートが回を追うごとに上昇し、平均落札レートに近づく動きとなった。ディーラーの新方式のオペに対する水準感が定まりつつあるという印象が感じられる。また、オファー額に対してはほぼ満額の落札結果となっている。

【月末オペ残高：2兆5562億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
11月7日	11月12日	4,000	7,386	3,995	0.051%	0.079%	73.1%
11月17日	11月20日	4,000	7,546	3,997	0.063%	0.085%	33.3%
11月25日	11月28日	4,000	8,439	4,000	0.071%	0.082%	15.0%

《ABCP》

ABCPの月末残は、前月比842億円の増加となった。前年同月比でも123億円の増加であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、11月末時点における発行登録企業数は変わらず、494社であった。通算の発行企業数も変わらず536社。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、先月よりやや低下し0.075%前後~0.09%前後でのレンジの出合いとなった。

◆ 12月のCP市場動向

12月のCP償還額は約4兆2300億円で、前年同月の償還額（約4兆4600億円）をやや下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、先月に続き賞与手当て対応の発行等により、活況が予想される。しかし、月末償還等ショートターム物中心の発行が多くなる事と四半期末決算で残高調整が行なわれることから、月末残高については15兆円台半ばに止まると思われる。

発行レートは発行増に伴い、発行量の多い銘柄や投資家ニーズの低い月末償還案件等ショートターム物については、上昇地合いとなるだろう。ロングターム物については、ディーラーのニーズも強く横這い推移を予想する。一般銘柄の3M物では0.07%台前半～0.110%台後半の出合い。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物は、0.08%台半ば～0.16%台半ばでの出合いをそれぞれ予想する。

《CPオペ》

今月は、4日（実施済）・16日・25日と、計3回の入札が何れもオファー額4500億円（前月より各回500億円増加）で予定されている。

4日のオペは、9/8のオペ以来3か月ぶりに応札が1兆円を上回り、前回オペレートより按分レート・平均落札レート共に上昇した。次回以降については、応札可能銘柄如何によるが引き続き発行増が続いていることも有り、オペレートは横這いから上昇地合いとなるのではないかと予想される。

12月末オペ残高は、2兆円2千億円を目標としているため、昨年同様にオファー金額の調整が行われる可能性もある。

《CP現先市場》

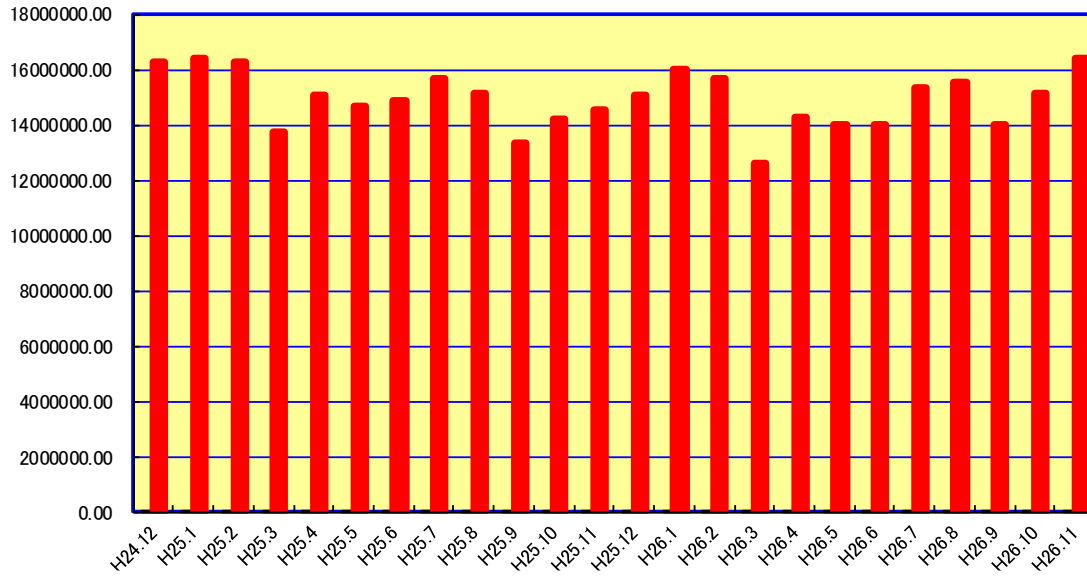
S/N物のレポレートは、0.01%台～0.05%前後でのワイドレンジでの動きを予想する。インターバンクレートも同様にワイドレンジでの動きが予想され、0.01%～0.07%近辺での出合いであろう。CP現先レートは、0.07%台前半～0.085%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（24年12月～25年11月）

発行登録企業：494社（発行実績あり 536社）

（過去2年間の残高を表示）



11 月末発行残高ベスト 20

11 月末発行残高上位 20 社

(単位: 百万円)

	発行企業名	11月末残高	10月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	783,400	786,100
2	三菱UFJリース	752,100	770,800
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	689,500	664,900
4	東京センチュリーリース	614,600	626,400
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	530,630	503,560
6	SMBC日興証券	509,700	434,500
7	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
8	みずほ証券	463,900	444,600
9	JXホールディングス	463,000	451,000
10	三菱商事	375,000	199,000
11	日本証券金融	368,000	318,000
12	新日鐵住金	345,000	359,000
13	興銀リース	334,500	329,500
14	芙蓉総合リース	332,700	327,700
15	JA三井リース	332,000	329,000
16	東 芝	323,000	303,000
17	三井住友信託銀行	313,100	348,700
18	大和証券	302,380	285,790
19	エイペックス・ファンディング	282,260	276,480
20	スタンダードチャータード銀行	237,500	227,500

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会